

指導部だより

指導部高等学校教育指導課 指導主事 横田雅博

中央教育審議会の審議において、高校数学に関係するものとして、2点注目していることがあります。

1点目は「高大接続・大学入学者選抜の改善」に関すること、2点目は「高等学校教育の質の確保・向上」に関することです。

1点目については、3月に審議経過報告がなされました。その中では、これからの時代に必要とされる力を育成するため、大学入学者選抜を改善して、生徒が意欲をもって主体的に学習に取り組むことを後押しすべきであるとしています。具体的には、一般入試・推薦入試・AO入試の区分を見直し、多面的・総合的に評価する総合型選抜（いわゆる、「達成度テスト（発展レベル・基礎レベル）」（仮称）の導入）へ抜本的に改革することがイメージとして作り上げられています。

達成度テストにおいて「基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を測る問題」について検討されている点は、高校数学の学習内容や活動に大に関わる事項と考えます。ただし、3月の審議経過報告には、具体策の実現可能性等の検討が引き続き必要としているところですので、皆さんにはその動向に注視していただきたいと思います。

2点目については、「高校生の学力・学習状況については、特に学力中位層の学習時間の減少とともに、基礎学力の不足や学習意欲の面で課題があり、一部の高校においては、小・中学校での学習内容が十分に身に付いていない者も少なからず見られるなど、学び直しへのニーズが非常に高まっている」として、3月に審議まとめが公表されています。

東京都では、平成25年度研究開発委員会において、「学力スタンダード数学（学び直し）」の開発を数学部会で行い、義務教育段階の内容と高等学校の内容の関連性を体系的に見直し、高等学校での学習に必要な義務教育段階の内容の重点ポイントをまとめました。

そして、平成26年度研究開発委員会では、テーマを「個々の能力を最大限に伸ばすための指導方法及び教材開発」とし、その方向性として「社会生活を行っていく上で必要な言語能力や数理能力、読み書き計算等、高等学校卒業時に身に付けさせるべき学習項目を明らかにし、学び直しスタンダード（平成26年度版）を完成させるとともに、学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能等を確実に定着させるための教材を開発」としました。

具体的には、昨年度の学び直しの項目について、つまづきとなる部分を明確にしてその原因などを分析し、このつまづきを解消することが社会生活を送るためのどのような力が身に付くのか、という視点で指導方法を開発し、指導資料集を作成することになります。

研究開発委員会が取り組んでいるテーマは、中央教育審議会で審議されている「高校教育の質の確保・向上」の「全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力『コア』」の議論と重なる部分であり、特に重要視されているものです。

都数研の皆様にも、研究の一つの視点として考えていただき、御教示頂けたらと考えています。

会報発行後に連絡をいただきましたが、お知らせすべき内容が含まれているため、追加で掲載することになりました。（編集部）